

「発見！」

「太田市の古墳！」

樹徳中学校

1年2組 15番 村岡 璃音

2020年 8月17日

目次

1. はじめに … 1

2. 古墳王国群馬について … 2

3. 天神山古墳について … 3, 4

4. 塚廻り古墳群第4号古墳について … 5

5. まとめ・感想 … 6

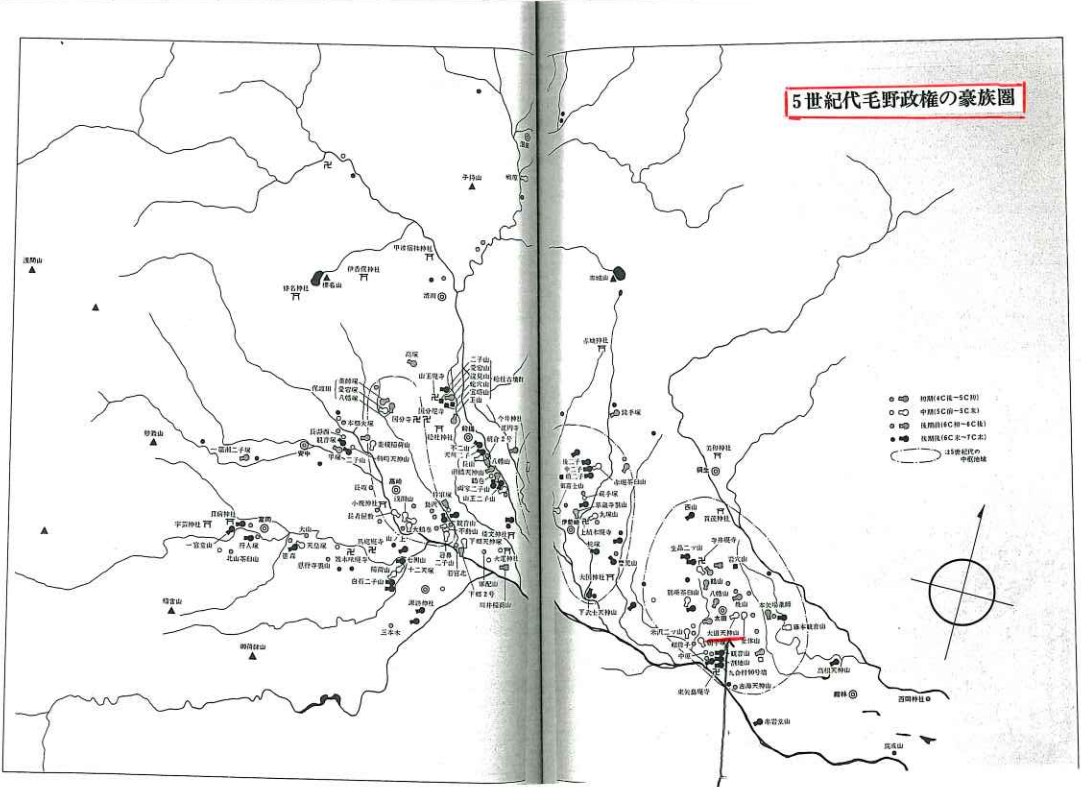
これは、太田市の古墳についてまとめたレポートである。

理由

群馬県地域は、全国的にも屈指の古墳分布地域の
一つであり、そのなかでも太田市にある天神山古墳を
はじめとした規模の大きい古墳がたくさんあるため、
他にも知ってみたいと思い、このことをテーマにした。
また、そのなかでも自分の住んでいる太田市の歴史
について興味を持ち、調べたいと思ったからである。

目的

このようなことを知り、郷土や歴史について学習し、
知識を習得することである。



太田天神山

2. 東国に雄飛・群馬

「古墳王国」と称され「独立的な毛野政権」の名がある古代の群馬は、日本古代史における東国の雄とされている。利根川をはじめ幾多の主要な河川や支流を利用した流通網を掌握することは、関東平野の扇の要としての地理的な群馬の優位性を確保することとなった。

日本書紀にも登場するように、武蔵の一豪族を扶けて大和政権に弓を引くほどの毛野政権の立場は、並々ならぬ実力の持主であり、東国の雄としての自負があったと思われる。

西暦五世紀代の群馬は、瀬戸内の吉備政権がそうであったように、大和政権に対して東国の雄・毛野政権の力を梟命に誇示したように見受けられる。太田市天神山古墳の墳丘が、210メートルという東日本最大の規模を有する点も首肯しうるところである。利根川とその支流とが形成した戸野部各地の有力豪族を加えた地域連合政権の成立を示すものであろう。

古墳王国群馬県

群馬県には、かつて1万3000基をこえる古墳が造られていた。

現在でも、2000基あまりがその姿をとどめている。

3, 天神山古墳

全国28位、東日本1位

形状…前方後円墳

規模…墳丘長210メートル

高さ 16.5メートル

埋葬施設…竪穴式の主体部 (推定)

内部に長持形石棺

出土品…円筒埴輪、水鳥形埴輪など

製造時期…5世紀前半~中期頃

史跡…国の史跡(天神山古墳)

○江戸時代には、棺として使われた大型の長持形石棺が発見された。

大型の長持形石棺が使われたことや埴輪の特徴から、古墳に埋葬された人は

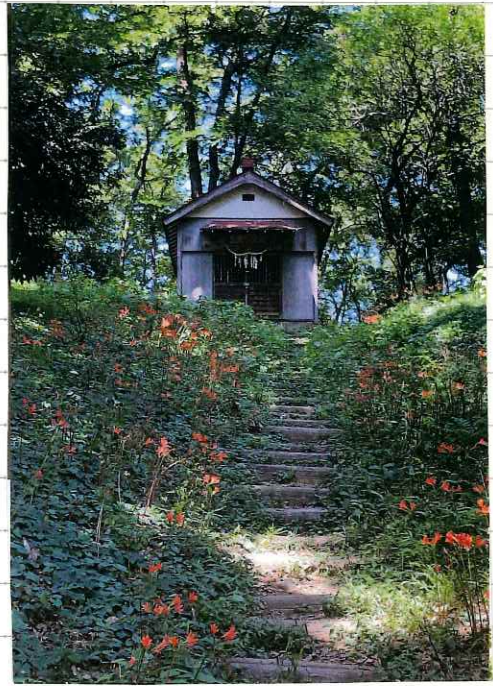
畿内大和政権と強いつながりを持っていた

毛野国の大首長とされているが、明らかではない。



太田天神山古墳 周濠を含む古墳の領域
長さ約353メートル、幅約288メートル
全長約210メートル、後円部直径約120メートル、
前方部前幅約126メートル、後方部長さ約90メートル、
後円部高さ約16.8メートル、前方部高さ約12メートル
平地に造営された関東地方最大の前方後円墳

天神山古墳



↑
 実際に行ってみて
 古墳の入り口にあった
 看板。

↑
 くびれ部頂上への
 途中に社殿あり。



↑
 実際に歩いてみて
 撮影した写真。

太田天神山古墳
 のくびれ部辺りに
 建つ鳥居。

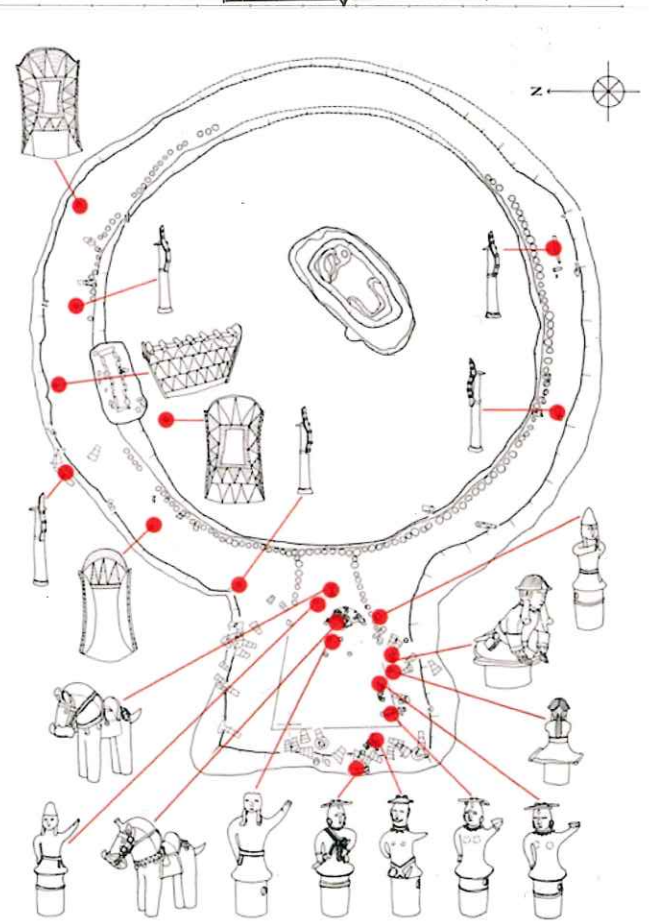
4, 塚廻り古墳群第4号古墳

形状... 帆立貝形古墳
規模... 22.5メートル
出土品... 円筒埴輪、形象埴輪
製造時期... 6世紀前半

○昭和52年に行われた土地改良事業の際に、偶然水田の下から発見された7基の古墳の1つである。

埴輪の特長から、むらおさの墓だと考えられている。埴輪は、その優れた造形と出土位置がほぼ明確で、埴輪祭式の様子を解明する上で高い価値を有していることから、一括して国の重要文化財に指定された。

埴輪の出土位置



5,

まとめ

○古代の群馬は、「古墳王国」と称され、「独立的な毛野政権」の名があった。群馬は、日本古代史における東国の雄とされていた。

○毛野政権の立場は、大和政権に弓を引くほどの実力があつた。東国の雄としての自負があつたと思われる。

○西暦5世紀代の群馬は、大和政権に対して東国の雄・毛野政権の力を梟命に誇示したように見受けられる。

○太田市天神山古墳は、東日本最大の規模を有する点も首肯しうるところである。

○塚廻り古墳群第4号墳は、埴輪の特長からむらおさの墓だと考えられている。

感想

今回古墳について調べたが、古墳時代のことを深く知ることができ、貴重な歴史が身近にあることを知った。

私は、実際に太田市の天神山古墳に行ってみた。普段通っていた道沿いにあり、いつも陸橋の車窓から見ていたが、古墳だとは知らずにいた。古墳の周りを歩いてみると大きな古墳であり、この古墳が東国1位であることを知り、身近にすごい古墳があるのだと誇らしく感じた。

また、下からみると前方後円墳の形はよくわからなかつたが、資料を見ながら円墳と方墳の位置を確認することができた。このような大きな古墳が

あることは、この地域が有かなところであることを理解できた。

群馬県は「古墳大国」といわれており、私が今回調べていない古墳がたくさんあるため、今後実際に行ってみたいと思った。また、埴輪についても今までは知識があいまいだったが、埴輪の種類にそれぞれ意味があることを知り、知識を深めることができた。

これからも、郷土の歴史に興味を持ちながら、知識をさらに深めていきたいと思う。

<参考文献>

- ・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編、群馬の遺跡5 古墳時代II〔集落〕
- ・煥乎堂・企画室編・目で見ると読む群馬の遺跡
よみがえる古代の文化
- ・太田市ホームページ・太田市教育委員会—文化財課、
8月12日、<https://www.city.ota.gunma.jp>